



【巻頭コラム】

何故今、野崎弁当なのか

特集 READY TO 2018

06 今年のイケてる過ごし方

14 BASIC TO YOU

22 イルミイの色眼鏡

32 あなたのオタクはどこから？
超・意識調査

34 遠征へ行こう！

36 STOP! マナーブサイク
現場のお作法

40 愛され♡ほめられ♡
TPOコーデのススメ

45 これだけは持っておきたい
現場のミカタ

46 人権はプチプラで手に入れる♡
限界オタクの激選マストコスメ

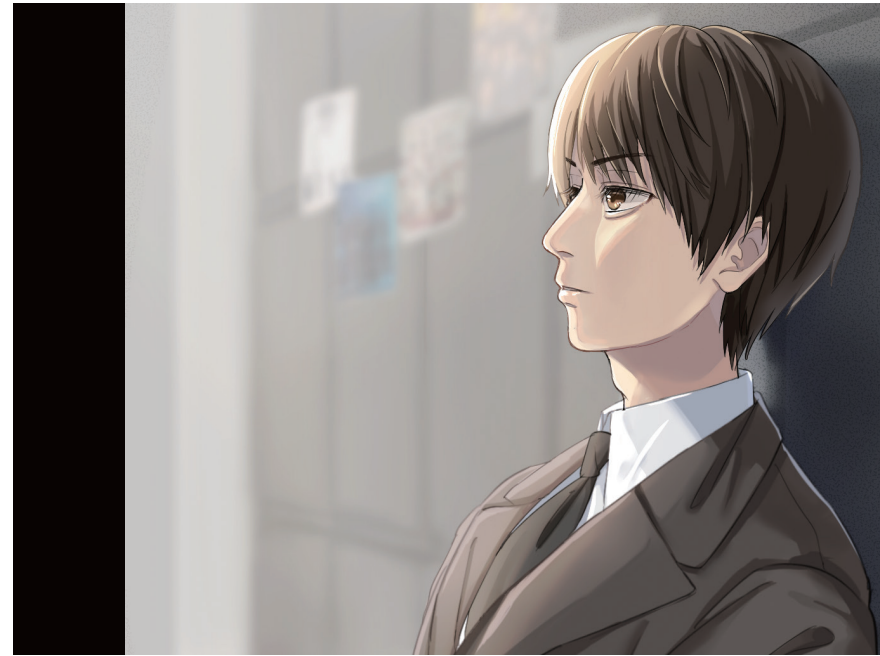
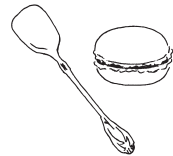
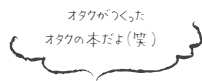
50 サイケ from 60's / 愛にまつわる花のはなし /
horoscope Mens / midnight TOKYO

58 Illumiy Journal

62 あなたにとって

74 CONTRIBUTOR LIST

76 編集後記



何故今、野崎弁当なのか

文章=ヨヲコ

なぜ今野崎弁当なのか、それを語るには、茶推しの皆さんが不可欠だと思った。

きっと誰のファンも推しとは相思相愛で深い愛情を持っているけど、中でも茶推しの愛情というのは私の目にはとにかく深く見えた。私が野崎さんを含めた複数推しのせいもあるのだろうが、そんな唯一無二の関係性と皆で担ぐ御神輿は風変わりな時もあったけどいつでも愛に溢れていて、微笑ましくて羨しくて、愛おしかった。

だけどそんなご本人は少し前まで、その御神輿の真ん中に乗るのが少しだけ苦手——と言うか、及び腰だったような気がする。

自分が乗るべき神輿に他の人に乗せてしまったり乗るのを躊躇ってしまったり、そんなことがしばしばあって、きつともどかしく、歯がゆい思いをした人も多分多かった。

それでも茶推しの御神輿はいっただって「そんな野崎さんも推せる」と彼を真ん中に盛り立て続け、声を

上げて。野崎さんを好きな気持ちがあれば、他推しでもどんどん手招きして祭の輪の中に入れて、そうして広がった景色は野崎さんの目にはどう映ったのだろう、いつからか、おっかなびっくりだったその人が、これは大手を振っていいものなのだ、もっと煽って欲を出していいものだと、そんな風に捉え方が変わってきたように見えた。そしてそれを証明するかのよう、野崎さんはみるみる輝いていった。

起点がどこかと聞かれると難しい。けれどホールツアーの応援合戦優勝からのセンターシングル発売、JUNONソログラビア、舞台出演。その一つ一つに歓喜し、精一杯皆で祭を盛り上げようとする茶推しの皆さんの美しさに私はいつも感動するのだ。

ハッピーニューイヤー、ハッピーニュー野崎元年。

きっと祭はまだ続く。茶推しがいるかぎり、野崎さんがその神輿に乗ってくれている限り。